



自然遊学館 だより



ガザミの脱皮

2014年6月29日、二色の浜の浅海でガザミの脱皮直後の様子をみつけました。右が脱皮殻で、左が殻を脱いだ個体です。

2014 AUTUMN

No.73



2014.11.17 発行 貝塚市立自然遊学館

目次

*ネイチャーリポート

- アカハネオンブバッタ 岩崎拓... 1
- 二色の浜で採集された
サンショウウニヤドリニナ 山田浩二... 2
- 近木川河口で確認されたトビハゼ 山田浩二... 3
- *行事レポート
- 夕暮れの海探検 山田浩二... 4
- 海藻おしば 山田浩二... 5
- 夏休み自由研究相談 2014 6
- 近木川河口の生きものと遊ぼう！ 山田浩二... 7
- 自然生態園バッタ調べ 2014 岩崎拓... 9
- 近木川のアユを調べよう！ 山田浩二... 10

*泉州生きもの情報

- 近木川河口のモヨウマルヒラムシ 山田浩二... 12
- アリ科 2 種の観察例 岩崎拓... 12
- ハナアブ科 2 種の観察例 岩崎拓... 14
- クロハサミムシ 岩崎拓... 15

*館長コーナー

- 生きものだいすき～第2回生きものだいすき総選挙投票
と似顔絵コンテストのお知らせ～ 高橋寛幸... 16
- *学芸員実習報告 18
- *寄贈標本 18
- *スタッフ日誌 20
- *お知らせ 21



ネイチャーレポート

アカハネオンブバッタ

2013年6月24日、毎月1回の割合で調査を行っている汽水ワンド（近木川河口付近右岸）北側斜面において、「オンブバッタ」のメス成虫を採集しました（図1）。外見はオンブバッタなのに、後翅が赤い色をしています。それに成虫が採れる時期も変なのです。



図1. オンブバッタ？

普通、オンブバッタ *Atractomorpha lata* は、秋に成虫になります。自然遊学館の記録では、2005年の千石荘での調査において、8月24日に観察されたものが最も早い時期の成虫の記録でした。

冒頭のメス成虫を展翅して標本室に置いていたところ、秋の自然生態園バッタ調べの行事に講師として来館された森康貴先生に、同属のアカハネオンブバッタ *Atractomorpha sinensis* と同定していただきました。「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」（日本直翅類学会編）によると、国内では南西諸島に生息し、周年発

生しているそうです。大阪で赤い翅のオンブバッタ（以下、アカハネ）が採集されたのは、2011年が最初で（市川ほか、2013）、すでに幾つかの報告例があります（松本、2014など）。

汽水ワンド北側斜面では、7月と8月にはアカハネは確認されず、9月10日に再び成虫が確認されました。当調査地も含めて自然遊学館周辺での分布を調べるために、10月4日に中谷憲一さんの協力を得て、数カ所で採集を行いました。

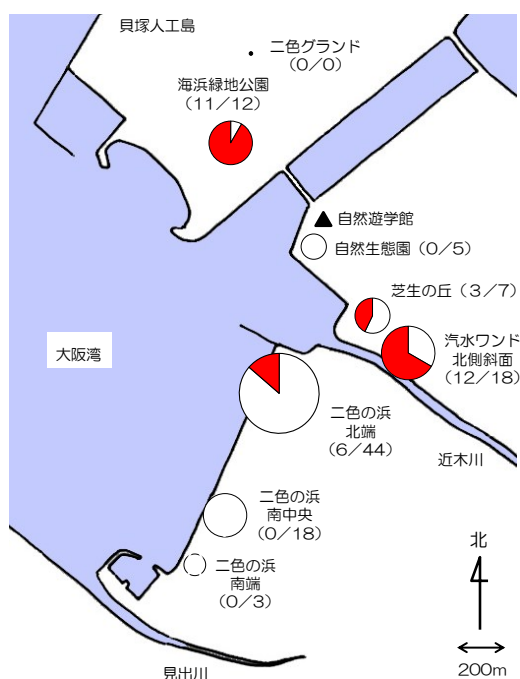


図2. 自然遊学館周辺のオンブバッタ属の分布
（2013年10月4日調査）



図2に結果をまとめました。各調査地名の右側に（アカハネの個体数／オンブ

とアカハネの合計個体数)を示しました。すべて成虫でオスの数とメスの数を足した値です。円グラフの大きさは合計採集個体数を示し、色を付けた部分がアカハネの割合を示しています。

汽水ワンドの近くでは、芝生の丘と二色の浜の北端でアカハネが確認され(図4)、貝塚人工島の海浜緑地公園では、採集したほとんどの個体がアカハネでした。それに対して、市民の森の自然生態園と二色の浜の南側ではオンブバッタしか確認されませんでした。

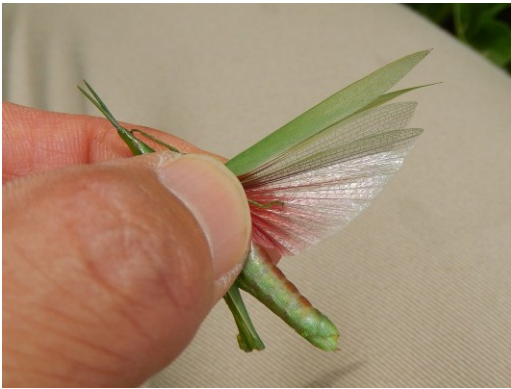


図3. アカハネオンブバッタ♀成虫
後翅の付け根と翅脈が赤いのが特徴です

採集していた気付いたことは、オスもメスもオンブバッタよりもよく飛ぶということです。自分の知らないうちにすぐそばにかなりの数の知らないバッタが生息していたのです。

このアカハネオンブバッタの確認で、自然遊学館がこれまでに貝塚市で確認してきたバッタ目昆虫(バッタ・コオロギ・キリギリス)がちょうど100種になりました。1993年の創館以来のバッタ目の記

録が、20周年記念の年にちょうど100種になったのは、切りの良い数字が並んだものだと思います。

引用文献

- 市川顕彦・河合正人・富永修・伊藤ふくお・赤いはねのオンブバッタ調査会(2013) アカハネオンブバッタを探しています. Nature Study 59(1):5-6.
松本吏樹郎(2014) 近畿地方に移入したアカハネオンブバッタ. Nature Study 60(5):9.

(岩崎 拓)

二色の浜で採集された サンショウウニヤドリナ

2014年7月28日、二色の浜の潮下帯の砂地でサンショウウニを捕獲した際、その個体に寄生性の巻貝、サンショウウニヤドリナ(ハナゴウナ科)が1個体付着しているのを見つけ(図1)、採集しました。これまでサンショウウニは二色の浜でシュノーケルを行うと度々見かけていましたが、サンショウウニヤドリナが寄生しているのは初めての確認となりました。

採集個体は殻長4.2mmで、殻は白く光沢のある半透明で、軟体には橙色の斑点が散在します(図2)。本種は大きくなっても殻長5mm程の小さな貝で、瀬戸内海での分布が知られています。ハナゴウナ科の貝はきまって棘皮動物に寄生し、多くの場合、宿主と寄生者の関係には種特異性が見られます。そのため寄生する貝には、たいてい宿主の名前がつけられています。近木川河

口で度々確認されるヒモイカリナマコツマミガイ（山田、2010）もハナゴウナ科の貝なので、そうした理由でこんな長い名前がつけられていたのですね。

採集個体は液浸標本（KCMN-Mo245）として、保管しました。



図 1. サンショウウニの殻表面に寄生する
サンショウウニヤドリニナ（丸印内）



図 2. サンショウウニヤドリニナ
Vitreobalcis temnopleuricola
二色の浜、2014 年 7 月 28 日採集

参考文献

- 奥谷喬司 編著 (2000) 『日本近海産貝類図鑑』、東海大学出版会、1173pp.
佐々木猛智 (2010) 『貝類学』東京大学出版会、381pp.
山田浩二 (2010) ヒモイカリナマコツマミガイの近木川河口での記録. 自然遊学館だより No. 57 : 9-10.

(山田 浩二)

近木川河口で確認されたトビハゼ

2014 年 9 月 7 日、近木川河口の干潟における滞筋の水際において、トビハゼ（ハゼ科）が 1 個体確認されました（図 1）。採集はしていませんが、この個体はまだ小さく、目測で全長約 3 cm の若魚でした。これまで、近木川河口では確認されておらず、貝塚市内において初めての目撃記録となりました。

トビハゼはその名の通り、泥の上をよく跳ねますので、英名もマッドスキッパーとつけられています。陸上生活に最もよく適応したハゼ類で、魚のくせに潮が満ちてくると水から逃げるように岸辺の石や杭などに這い上がって休息します。また、胸ビレ基部の筋肉が発達していて、これを腕のように使って泥上を這い回って小動物を捕まえます。生後約 1 年で 5 cm ほどになって成熟するようで、成長すると全長 10 cm になります。

国内での分布は東京湾から沖縄島までの各地の泥干潟ですが、減少傾向にあり、環境省が 2013 年に発表したレッドリストでは「準絶滅危惧種」に指定されています。大阪府内では男里川河口で最近の記録がありますが（花崎・山田 2007；北藤、2009）、生息数は少なく、大阪府レッドリスト 2014 では絶滅の危機に瀕している種として「絶滅危惧 I 類」に指定されています。

今回見つかったトビハゼの若魚は、おそらく他の繁殖地から仔魚の浮遊期に流されてやって来たと考えられます。近木川河口がトビハゼにとって生息しやすい環境

であることを願って、今後の成長を見守りたいと思います。



図 1. トビハゼ
Periophthalmus modestus
近木川河口、2014 年 9 月 6 日

謝辞

撮影に御協力頂きました鈴子佐幸さんに謝意を表します。

引用文献

花崎勝司・山田浩二 (2007) 大阪湾におけるトビハゼの記録. 「波打ち際の自然史」. きしわだ自然資料館, pp. 35-36.

北藤真人 (2007) 男里川河口で見つかったミヤコドリガイとトビハゼについて. *Nature Study* 55(2):4-5.

(山田 浩二)

行事レポート

夕暮れの花探検

日時：8 月 3 日 (日) 16:00~20:00

場所：近木川河口、二色の浜、多目的室

参加者：43 人

協力：大阪湾環境保全協議会

この夏は土日に雨が降られることが多かったのですが、残念ながらご多分に漏れず、雨の中での行事となりました。例年通り、カゴ網、ミニ曳網、プランクトン観察の 3 本柱を予定し、カゴ網は前日の夕方から突堤に仕掛けましたが、この時すでに雨模様でした。

当日は小雨の中でのスタートとなり、講師の鍋島靖信さん（大阪府立環境農林水産総合研究所）から大阪湾の生きものについての導入となる話から始まりました。そして、参加者は 2 班に分かれてカゴ網の回収を行いました。カゴ網は全部で 10 個の仕掛けをし、4 個は空でしたが、6 個には魚やカニ、貝が入っていました（図 1）。特に魚はガッチョと呼ばれるネズミゴチや、ネプトと呼ばれるテンジクダイといった泉州では食卓をにぎわす馴染みのものが入りました。また、スジハゼ類も入り、この魚は最近分類が見直され、3 種類に分かれたのですが、サポートスタッフの松井彰子さん（京都大学）がちょうどこの分野を専門としていましたので、すぐにモヨウハゼということがわかりました。

【二色浜側】		【近木川河口側】
⑤ コンダカガンガラ 1、イシガニ 1、ネズミゴチ 1	突 堤	⑤ モヨウハゼ 1
④ フタバベニツケガニ 1		④ イシガニ 1
③ なし		③ テンジクダイ 1
② なし		② なし
① アラムシロ 4		① なし

図 1. カゴ網で採集された生物
①から⑤は岸から沖に向けての番号



カゴ網の採集生物について解説

次のミニ地曳網を行う頃には、雨が本降りになってきましたが、なんとか1回網をひきました。結果、ウミタナゴやアオタナゴ、コショウダイなど 9 種 42 個体の魚類が採集できました（表 1）。これ以上、野外での活動はあきらめ、参加者には館に戻ってもらうことにし、プランクトンの採集はスタッフが行いました。

表 1. 二色の浜地曳網 2014年8月3日（網入れ1回）

目	科	和名	個体数
スズキ目	イサキ科	コショウダイ	7
	タイ科	ヘダイ	5
	ウミタナゴ科	ウミタナゴ	13
		アオタナゴ	8
	ネズミゴチ科	ネズミゴチ	1
	マハゼ科	マハゼ	1
	ヒメハゼ科	ヒメハゼ	5
フグ目	アイゴ科	アイゴ	1
	フグ科	クサフグ	1

館の多目的室でしばらく濡れた体を乾かした後、先ほど採集したプランクトンの観察です。顕微鏡で拡大した映像を大型モニターに映し出して、どんなプランクトンがいるのかを鍋島講師の解説と共に観察しました。単細胞生物のケイ藻類や渦鞭毛藻類、多細胞生物のケンミジンコ類などが見られました。早めに室内にひきあげた分、今回はじっくりとプランクトンについて学べ、理解が深まったようでした。



プランクトンについて解説

（山田 浩二）

海藻おしば

日時：8月17日（日）13：30～15：30

場所：多目的室

参加者：24人

今年の「海藻おしば」製作会は、お盆の時期に開催しましたので、帰郷した家族の方たちの参加もあり、遠くは関東地方にお住まいの方もおられました。講師には海藻おしば協会認定指導員の河原美也子さんに来て頂きました。

はじめに材料となる海藻についてのお話をスライドを使ってお話して頂きました。海藻というとワカメ、昆布といったイメージが強かったようで、様々な形のカラフルな海藻を使った海藻おしば作品の紹介に見とれている様子でした。



海藻おしば作りに挑戦

休憩をはさみ、実際に河原講師が海藻おしば作りの実演を行い、手順を見て頂きました。その後、参加者は各テーブルに用意された海藻を使って、ハガキの上に作品を作っていました。どのような作品に仕上げるかは、各自のアイデア次第とあって、「うーん、どうしよう」と悩みつつ、試行錯誤している様子でした。

約1時間かけた頃には、皆さん精一杯やったという立派な作品を完成させていました。



海藻おしば参加者作品の数々

(山田 浩二)

夏休み自由研究相談 2014

日時：2014年7月23日（水）

～ 8月29日（金）

今年の夏休みに受けた自由研究相談のうち、主なものを以下に示しました。

- ・ 樹木について
（貝塚市、中学1年）
- ・ 男里川河口の生きもの調べ
（泉南市、小学5年）
- ・ トンボ調べ
（貝塚市、小学2年）
- ・ トンボの標本作り
（貝塚市、小学4年）
- ・ 和歌山県江津良海岸の打ち上げ貝
（貝塚市、小学2年）
- ・ トビモンオオエダシヤク幼虫の生態
（貝塚市、小学2年）
- ・ カマキリについて
（和歌山県橋本市、小学4年、小学2年）
- ・ 蕎原のカエル
（貝塚市、小学3年）
- ・ 水辺の生きもの
（貝塚市、小学2年）
- ・ シロアリの生態
（貝塚市、中学1年）



近木川河口の生きものと遊ぼう！

日時：9月7日（日）10：00～15：00

場所：近木川河口

参加者：60人

伝統行事となりつつあるカニ釣りや、海辺の生きもの探し、ミニ地曳網を行いました。カニ釣りする場所の下見の際、ヨシが過密に生えていましたので、岸和田土木事務所の応援の下、事前に適度なヨシ刈りを行い準備しました。

午前中はカニ釣りで、今回、餌はチクワを用いました。始めてすぐに続々とみなさん釣り上げ、例年にないピッチで各自のバケツの中にカニが貯まっていく様子でした。釣りタイムは50分間とし、終了後に計測所を設け、スタッフが種、雌雄、甲幅の記録をとりました。集計すると、アシハラガニ149匹、クロベンケイガニ66匹、ハマガニ45匹、アカテガニ1匹の計4種261匹が本日の釣果となりました。昨年もたくさん釣れ、計131匹を記録しましたが、今回はさらに倍増した結果となり、過去のカニ釣りの中でも最高を記録しました。特にアシハラガニの顕著な伸びが、記録を押し上げた形となりました。釣ったカニは、大半を再び逃がしてやり、家で飼育を希望される方には数匹持ち帰って頂きました。

また、カニ釣りしている最中に、干潟の滞筋で小さなトビハゼが1匹、ピョンピョンと跳ねてはきょろきょろと顔を動かしているのを見つけました（今号のネイチャーレポート参照）。近木川河口では初めてお目にする魚で、「ようやくお会いしましたね」という心境でした。

カニ釣り大物ベスト3 近木川河口2014年9月7日

アシハラガニ

合計 149個体（平均甲幅 25.5mm）			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1 31.6	♀	エモト	レイコ
2 31.4	♀	カワウエ	アラタ
2 31.4	♂	ツツミ	イッタ

クロベンケイガニ

合計 66個体（平均甲幅 24.7mm）			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1 35.6	♂	ツツミ	イッタ
2 34.4	♂	ツツミ	イッタ
2 34.4	♂	ワタナベ	ユウト

ハマガニ

合計 45個体（平均甲幅 41.7mm）			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1 57.1	♂	フジワラ	タカフミ
2 52.9	♂	フジワラ	タカフミ
3 51.2	♂	シラガ	ユメ

アカテガニ

合計 1個体			
甲幅(mm)	性別	採集者	
1 30.8	♂	オクダ	ミノリ



釣られたハマガニたち

午後からは、河口を下っての海に面した前浜に場所を移し、また、講師に貝類に詳しい児嶋 格さんに来て頂き、生きもの探しを行いました。1時間ほど採集し、貝類

29 種、甲殻類 7 種等が確認されました。貝では、児嶋講師の採集したノミニナが近木川河口では初記録となり、赤井玲音さんの採集したウミニナは 2012 年 5 月以来の記録となりました。また、砂地ではコメツキガニの若い個体が 10 匹ほど巣穴から地表に出て活動していました。



海に面した河口で生きもの探し

皆が採集した生きものについて一堂に集め解説を行った後は、波打ち際に集まり、観察会の最後を締めくくるミニ地曳網です。もうかなり潮が満ちてきていて、網を引っ張る足場がなくなっている中、急いで行いました。1 回目はアイゴばかりが 17 匹、2 回目もアイゴだけで 2 匹という拍子抜けした結果に終わりました。

午後に観察した海岸動物は下の表にまとめました。



河口でミニ地曳網をひく

近木川河口(前浜)で観察した海岸動物 2014年9月7日

グループ			和 名
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク
軟体動物門	多板綱	クサズリガイ科	ヒザラガイ
	腹足綱	ヨメガカサガイ科	ヨメガカサ
		ツタノハガイ科	マツバガイ
		ニシキウズガイ科	イシダタミ
			コシダカガンガラ
		アマオブネガイ科	イシマキガイ
		ウミニナ科	ウミニナ
		タマキビ科	アラレタマキビ
			マルウスラタマキビ
			タマキビ
		カリバガサ科	シマメノウフネガイ
		アツキガイ科	イボニシ
		フトコロガイ科	ムギガイ
			ノミニナ
		オリイレヨフバイ科	アラムシロ
		トウガタガイ科	オーロラクチクレ
		有肺垂綱	キクノハナガイ
		後鰓垂綱	クロシタナシウミウシ
			イズミドリガイ
(淡水貝)	リンゴガイ科		スクミリンゴガイ
二枚貝綱	イガイ科		ムラサキイガイ
			ホトギスガイ
			クログチ
		フネガイ科	カリガネエガイ
		イタボガキ科	マガキ
			ケガキ
		チドリマスオ科	クチバガイ
		マルスダレガイ科	アサリ
			マツカゼガイ
節足動物門	顎脚綱	ミウガガイ科	カメノテ
	軟甲綱	クルマエビ科	クルマエビ
		ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ
		ヨコバサミ科	コバヨコバサミ
		ガザミ科	ガザミ
		モクズガニ科	ケフサイソガニ
		コメツキガニ科	コメツキガニ
脊索動物門	硬骨魚綱	ゴンズイ科	ゴンズイ
		シマイサキ科	コトヒキ
		ハゼ科	ミミズハゼ属
			ヒメハゼ
			チチブ
		アイゴ科	アイゴ

コメツキガニ



(山田 浩二)

自然生態園バッタ調べ 2014

日時：9月13日（土）10：00～11：30

場所：自然生態園「バッタの原っぱ」

参加者：12人

貝塚市二色にある市民の森公園に自然生態園「バッタの原っぱ」が出来たのは1999年で、以来、自然遊学館わくわくクラブ（前身は、自然生態園をつくる会）のメンバーによって草刈りなどの維持管理が行われています。

今年も森康貴先生の指導、同クラブの皆さんのサポートの下、「バッタの原っぱ」でバッタ調べを行いました（図1）。昨年は夏期に雨があまり降らずに原っぱの中央部が枯れることがあり、2006年からデータをとり始めてから、種数と個体数ともに最低の結果となりました。今年はどうでしょうか。



図1. たくさん採れるかな？

森先生がいろいろなバッタ・コオロギ・キリギリスについて説明をされ、同クラブの白木江都子さんから維持管理作業の話聞いた後、12人で20分間の採集を行いました。

表1. 自然生態園「バッタの原っぱ」のバッタ調べ

2014年9月13日 10:15～10:35 12人

同定：森 康貴

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	ホシササキリ	12	2
	クビキリギリス		6
コオロギ科	エンマコオロギ	7	1
ヒバリモドキ科	シバスズ		1
	マダラスズ	3	2
オンブバッタ科	オンブバッタ	3	1
	アカハネオンブバッタ		2
バッタ科	ショウリョウバッタ	5	
	クルマバッタモドキ	6	
	マダラバッタ	7	3

ほか、オオカマキリ(1♂)とチョウセンカマキリ(5♂3♀2幼虫)を採集。

採集したものを1匹ごとにプラスチックカップに入れていくと、だんだんとプラスチックカップが増えていきます。結局、10種61個体のバッタ・コオロギ・キリギリスが採集されました（表1）。

説明すべき結果の1点目は、本号のネイチャーレポートで紹介したアカハネオンブバッタが「バッタの原っぱ」でも確認されたことです。昨年は近木川河口周辺と貝塚人工島では確認されましたが、その間に挟まれた市民の森公園では確認されていませんでした。今回の行事では、幼虫が2個体確認されました（図2）。



図2. アカハネオンブバッタ幼虫
(同定：森康貴氏)

オンブバッタとの区別ですが、成虫なら、後翅が赤味がかっている点で見分けることができます。でも、幼虫には翅がありません。森先生の話によると、アカハネオンブバッタは顔（頭部）が短く、慣れると分かるそうです。

2点目は、これまで2008年に1個体しか採集されていなかったクルマバッタモドキが6個体も採集されたことです。

3点目は、バッタの仲間ではありませんが、チョウセンカマキリが10個体確認されたことです。これまでは0～3個体という結果だったのに、一気に増えました。これは、行事直前の餌の量ではなく、春のふ化後から今までの餌の量が多かったことを示しているものと考えられます。

表2に、記録をとり始めた2006年以降の種数と個体数を示しました。種数と個体数が少なかった昨年からは回復し、2009年から2012年の値に近づきました。

表2. バッタの原っぱで採集されたバッタ目の種数、個体数、および優占種

年	種数	個体数	優占種
2006	11	50	クビキリギス
2007	12	58	クビキリギス
2008	15	66	ハラオカメコオロギ
2009	8	61	マダラバッタ
2010	8	68	エンマコオロギ
2011	11	70	ホシササキリ
2012	11	73	マダラバッタ
2013	8	29	オンブバッタ
2014	10	61	ホシササキリ

最後に、ある参加者の方から「どうして優占種（＝個体数が一番多い種）が年ごとに入れ替わるのか」という質問が出ました。森先生の答えは「狭い草むらなので、生存率が草刈りの時期などに大きく影響を受けてしまうから」ではないかということでした。採集したバッタやカマキリをすべて逃がして、行事を終えました。

(岩崎 拓)

近木川のアユを調べよう！

日時：9月21日（日）10：00～12：00

場所：近木川下流（新井井堰付近）

参加者：39人

3年目を迎えた観察会「近木川のアユを調べよう！」、昨年はアユの群れが参加者の目の前で泳ぐのが観察でき、計30匹ほどが採集され反響をよびました。今年はこの場所で7月にアユの群れの見撃情報が寄せられていましたが、8月に入り姿が見え

なくなっていました。これに加え、台風 11 号で堰の右岸側が崩落したことで、川の流れを左岸側へ寄せる掘削工事が行われ、ますますアユがここで見られるか心配な状況になっていました。



台風の影響で崩れた近木川右岸の護岸

観察会には講師として、アユ捕り名人こと河野通浩さんにお越し頂きました。右岸の河原に参加者に集まって頂き、河野講師が早朝に男里川で採集してきたアユの入った水槽を前に、最近のアユの状況等についての説明から行事がスタートしました。そのあと、さっそくタモ網を持って各自、採集を始めました。



タモ網で魚を採集する参加者

すぐに大きなウナギが見つかりましたが、残念ながら死んで間もないものでした。

よく見ると口に釣針が掛かっていました。ほかにボラやゴクラクハゼ、メダカなどが採集され、参加者のバケツの中は賑わっていききました。ただ、ねらいのアユの方は、誰一人として、姿をみることができませんでした。

後半は参加者全員で新井井堰の上流部に移動しました。採集を始めようとする、すばやく泳ぐアユの姿を河野講師は見逃しませんでした。目の前を行きかう姿、総勢 7、8 匹。「アユがおった～」の声に、みんな躍起立ちました。そして、みんなの見守る中、すばやく刺し網を掛けて捕獲にかかりました。結果、何とか今回も計 3 匹のアユが捕れました。



刺網に掛かったアユを見せる河野講師

アユが新井井堰を越えて、上流側に生息していることが、今回初めて確認されたことになります。そして、参加者も上流部の川に入って採集をした後、集合場所に戻り、各自の採集生物を水槽やバットなどに移し並べました。どんな生きものが採集されたか、紹介と解説を行い、最後のまとめとしました。下表に今回採集した生物のリストをあげました。



本日の採集生物について解説

〔魚類〕ウナギ、アユ、ボラ、メダカ、タモロコ、
オイカワ、ギンブナ、クロサギ、チチブ、ゴク
ラクハゼ、マハゼ、ミミズハゼ
〔甲殻類〕テナガエビ、ミナミヌマエビ、クロベ
ンケイガニ、アカテガニ、モクズガニ
〔両生類〕ヌマガエル
〔貝類〕イシマキガイ
〔水生昆虫〕アメンボ

(山田 浩二)



泉州生きもの情報

近木川河口のモヨウマルヒラムシ

モヨウマルヒラムシは扁形動物門の渦虫綱ヒラムシ目に属する海産動物です。楕円形をした体長5mm程の小さな生物ですが、オレンジ色に白色の模様が入る鮮やかな体色はまるで宝石のようです。

近木川河口の前浜ではこれまで2009年6月24日に1個体が記録されていましたが(山田・和田、2011)、2014年6月12日には同地点で、多産しているのを確認しまし

た。転石をめくると多くのもので、数個体のモヨウマルヒラムシが付着していました。じっと見てみると、そのうち石の表面をゆっくりと滑るように移動して逃げる様子が伺い知れました。頭部には短いながらも2本のツノのような触手があり、こちらを前方に移動します。

小さくおしゅれ(派手)なモヨウマルヒラムシですが、ヒラムシ類は腹側に口があり、肉食性として知られています。



図1. モヨウマルヒラムシ
Hoploplana ornata
近木川河口前浜、2014年6月12日

引用文献

山田浩二・和田太一(2011) 近木川河口干潟の底生生物調査(2009年). 貝塚の自然 第13号: 8-11.

(山田 浩二)

アリ科2種の観察例

自然遊学館が所蔵する貝塚市産アリ科標本は、2003年発行の動植物リストでは

52 種でした（平峰、2003）。2011 年に千石荘でヒメオオズアリを採集して 53 種になりました（本誌 60 号）。今回、新たに 2 種を追加したことを報告します。

チクシトゲアリ

Polyrhachis moesta

2014 年 6 月 3 日、柜谷の川沿いで大発生したテングチョウを観察していた時です。イボタの小枝を見慣れないアリが歩いているのを見つけて採集しました。これまで標本がなかったチクシトゲアリでした（図 1）。見慣れないのも当然で、自分はこれまで岸和田市の河合町で 1 個体しか見たことがなかったからです。その時も今回と同じように、1 個体だけがぼつんと歩いていて、周りには仲間がいませんでした。体長は 6mm で、前伸腹節と腹柄節という部分に、それぞれ 1 対の発達したトゲを備えているのが特徴です。学研の『日本産アリ類全種図鑑』によると、樹上性で、枯れ枝に幼虫の吐き出す糸で巣をつくるそうです。

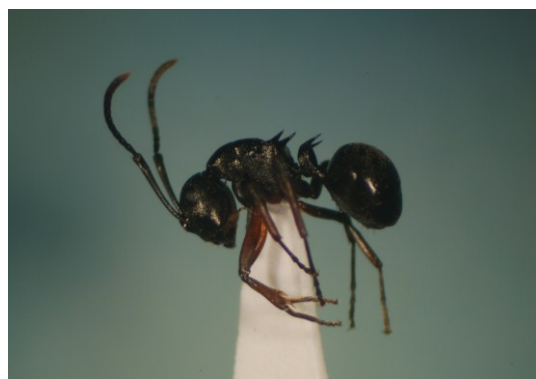


図 1. チクシトゲアリ♀

クロクサアリ

Lasius fuji

2014 年 9 月 9 日、和泉葛城山の山頂でジムグリの死体を発見しました。その尾部にアリが多数たかっていて（図 2）、そのうちの 3 個体を採集して、自然遊学館に持って帰って調べると、これまで標本がなかったクロクサアリだと分かりました。クロクサアリは決して珍しい種ではありません。「当然、標本はあるだろう」と思い込んでいて、標本のデータを打ち込む際に、これまで標本がなかったことに気付きました。



図 2. ジムグリの死体に集まるクロクサアリ

2 種を追加して、自然遊学館が所蔵する貝塚市産アリ科標本は 55 種になりました。10 周年から 20 周年まで 1 種しか増えなかったのに、今年は 2 種も増えました。でも、平峰先生から「これはいるはず」と言われている種がまだ 4 種残っています。

引用文献

平峰厚正（2003） 貝塚市で観察・採集されたアリの一覧表。「貝塚の自然-自然遊学館創館 10 周年記念号-」, pp. 123-127.

（岩崎 拓）

ハナアブ科 2 種の観察例

和泉葛城山山頂付近で月に 1 回行っている昆虫調査で、8 月と 9 月にそれぞれ、自然遊学館が標本を所蔵していなかったハナアブ科を観察したので報告します。

シロスジナガハナアブ

Milesia undulata

2014 年 8 月 5 日、アシナガバチだと思ってよく見るとハナアブでした。体長は 20mm 程度です。ハナアブの仲間としては大型で、美しい種でした。動作もアシナガバチに似ていると思いながら撮影していて、捕虫網を構えたとたんに逃げられてしまいました。



シロスジナガハナアブ（オス成虫）

オオヒゲナガハナアブ

Chrysotoxum grande

2014 年 9 月 9 日、他の昆虫を撮影していると、頭の周りを何かが飛び回り出して、てっきりウシアブだと思って採集したら、がっちりとした体型のハナアブでした。写真は館に持ち帰って撮影したものです。体長は 16mm でした。



オオヒゲナガハナアブ（メス成虫）

自然遊学館ではこれまでに貝塚市産のハナアブ科を 37 種所蔵していました（この種数には、種まで同定できなかったものは含めていません）。ここ数年、森康貴さんに標本のチェックをしていただく機会があり、整理がかなり進みました。37 種のうち、亜科の内訳としては、アリノスアブ亜科 1 種、ヒラタアブ亜科 16 種、ハナアブ亜科 20 種となっています。

今回は、オオヒゲナガハナアブだけ標本が増えて 37 種目となりました。ハナアブ科はこれまで積極的に集めてきたグループとはいえないので、種数はまだまだ増えると思います。

参考文献

竹内正人（2009）双翅目談話会研究資料（3）
写真集 ハナアブ 300.

（岩崎 拓）

クロハサミムシ

キノコを採集してくると、それに付いていた昆虫も一緒に採集されていることがあります。たいてい菌食者か雑食者で、それが意外と、自然遊学館に標本がない種だったりします。

本誌 60 号で紹介した 2011 年の千石荘で採集したヒメオオズアリもその例で、その後、2011 年の水間公園、2012 年の千石荘でも、キノコを採集してヒメオオズアリが得られています。和泉葛城山のブナの立枯れ木や倒木に生えるツキヨタケのひだには、決まってキイロセマルケシキスイがたくさん付いています。キノコにとっては食われるだけでなく、胞子を運んでくれる「お客様」なのでしょう。

2010 年頃だったと思います。市川顕彦さんから「ヒトクチタケというキノコの中にクロハサミムシがいる」という話を聞きました。ヒトクチタケはアカマツなどの樹幹に生えるキノコで、似たキノコがないので、見間違えることはないと思います。それ以降、注意してヒトクチタケを見ていたのですが、なかなかクロハサミムシには出会いませんでした。

2010 年に和泉葛城山登山道 B コースで見つけたヒトクチタケから、カブトゴミムシダマシ、ヒラタキノコゴミムシダマシ、オオヒラタケシキスイ、ヒメツノゴミムシダマシという甲虫が得られたこともありましたが、これらの種も、自然遊学館に標本がありませんでした。

2014 年 9 月 18 日、和泉葛城山登山道 A コース、ハシカケノ滝から少し登った所

(標高約 650m) で、アカマツの樹幹にヒトクチタケが 2 個付いていました。片方は穴が開いていました(図 1)。それを取ると、クロハサミムシが 2 個体出てきました(図 2)。両方ともメス成虫で、鋏を含む体長は約 15mm でした。ようやく出会えました。これで自然遊学館が所蔵する貝塚市産のハサミムシ目が 9 種目となりました。



図 1. ヒトクチタケ



図 2. クロハサミムシ♀成虫

2009 年に馬場でミジンハサミムシを採集して 8 種目になってから 1 種増えるのに 5 年かかったことになります。以下、自然遊学館がこれまでに記録した貝塚市産ハサミムシ目のリストを示します。

ハサミムシ目

ハサミムシ科

ヒゲジロハサミムシ *Gonolabis marginalis*

ハマベハサミムシ *Anisolabis maritima*

イソハサミムシ *Anisolabis seirokui*

キアシハサミムシ *Euborellia plebeja*

オオハサミムシ科

オオハサミムシ *Labidura riparia*

クロハサミムシ科

ミジンハサミムシ *Labia minor*

クロハサミムシ *Nesogaster lewisi*

クギヌキハサミムシ科

エゾハサミムシ *Eparchus yezoensis*

コブハサミムシ *Anechura harmandi*

(岩崎 拓)



第2回生きもののだいすき総選挙と 似顔絵コンテスト会場

期間中に来館された皆様が多数ご参加
下さいました。ありがとうございました。



館長コーナー

生きもののだいすき

第2回生きもののだいすき総選挙投票と 似顔絵コンテストのお知らせ

昨年、創立 20 周年を記念して行いました『生きもののだいすき総選挙投票』と『似顔絵コンテスト』を、今年も夏休み期間中に実施しました。

前回と同じように投票箱を展示室中央に設置し、7月20日～8月31日の期間を投票日としました。



20 その他

他に好きな遊学館の生きものがあれば、投票用紙にその名前

第2回人気者ベスト4

1位 **タカクラタツ** 37票獲得
去年に続き2連覇

2位 **アメリカザリガニ** 32票

3位 **シロシュモクザメ剥製** 18票

4位 **オオカマキリ** 17票

第2回生きものだいすき総選挙結果は上記の通りです。
投票くださった皆様有難うございました。

遊学館投票会場に掲示してある結果発表

第2階生きもの11位から20位				第2階生きもの11位から20位				21位以下			
順位	得票	番号	名前	順位	得票	番号	名前	順位	得票	番号	名前
1	37	17	タカクラタツ	11	6	5	ハシガニ	23	1	20	ビショウ
2	32	2	アメリカザリガニ	12	5	4	クロベンケイガニ	23	1	20	シロマダラ
3	18	19	シロシュモクザメ剥製	13	4	20	ミツユドアンフューマ	23	1	20	アマガエル
4	17	9	オオカマキリ	13	4	18	アユ剥製	23	1	20	ハブアブトナオアシ
5	16	8	ニホンヒキガエル	13	4	13	ウシガエル	23	1	20	ショウセンイタナ
6	14	12	ニホンイモリ	13	4	1	ハクセンシオマネキ	23	1	20	シルバーシャーク
7	13	11	クサガメとアカミミガメ	17	3	20	ヘラクレシオオカブトムシ	23	1	20	コイサキ
7	13	10	アオダイショウ	17	3	20	アカネズミ	23	1	20	アブムシ
9	10	7	ウシガエル	17	3	16	コイ	23	1	20	ナナフシ
9	10	6	シュレーゲルアオガエル	17	3	15	メジナ	24	無	無投票書、不依の物	
				17	3	14	クロダイ				
				17	3	3	カサガニ				

生きものだいすき総選挙結果一覧

第2回 生きものだいすき総選挙結果

順位	得票	番号	名前
1	37	17	タカクラタツ
2	32	2	アメリカザリガニ
3	18	19	シロシュモクザメ剥製
4	17	9	オオカマキリ
5	16	8	ニホンヒキガエル
6	14	12	ニホンイモリ
7	13	11	クサガメとアカミミガメ
7	13	10	アオダイショウ
9	10	7	ウシガエル
9	10	6	シュレーゲルアオガエル

生きものだいすき総選挙上位10

もう一つの結果のお知らせ

人気者投票とともにに行った似顔絵コンテストは昨年の作品数 39 点を大きく上回る 350 点以上の作品が寄せられました。

それぞれに分類してみましたが、人気のあるもの（タカクラタツやアメリカザリガニなど）は昨年の応募総数に劣らないほどの数でした。

昨年は全作品を展示し、そこからすきな作品を選んでもらうコンテストを行いました。今年はこれだけの作品を一覧できる場所もなく、コンテストをどのように行うか思案中です。年末の特別展として人気者似顔絵作品展でも行って、ご披露しようかとも考えていますが、結論は出ていない状態です。

これから寒い冬を迎えると生きものたちの活動は変化します。先日の小学校の団体見学でこんな質問が出ました。「今日見学した遊学館の生きもので、『アオダイショウ』や『アカネズミ』は動いていませんでしたが、冬眠しているのですか？」

寒くなると動かなくなるのは冬眠をするからだ、ということを知っていたのでしょう。また、最近、冬眠前のクマやイノシシ

が里に下りてきて食べ物を探しているというニュースをみていたのかもしれませんが。不思議に思ったことを質問してくれました。

その質問の回答は次のような内容でした。「寒くなると動物は冬眠しますが、ヘビやネズミは夜に盛んに活動し、餌をさがしたりします。今は明るい昼間だったので動かなかったのだと思います。また、冬に活動する動物以外は冬になって寒くなると冬眠しますが、遊学館では冬は暖房して生きものを飼っているので、冬眠はしません。それから、遊学館に生きものを見に来てくれた人が『せっかく来たのに、冬眠してじっとしていると残念だ』、と思わないように、動く様子を見られるようにしています。」

質問してくれた小学生は満足していたように思いましたが、皆様はどのように回答されますか？

今後とも、遊学館をよろしく願いいたします。

(高橋 寛幸)



実習報告

今季は3人の学芸員実習生を受け入れました。延べ10日間の期間中は、自然遊学館の行事補助や特展準備、飼育などの通常業務のほか、課題を自主的に決めて、調査などに取り組んでももらいました。以下、氏名、所属、課題を記しました。

平松優紀（近畿大学農学部水産学科）

期間：7月～8月

二色の浜の漂着物の調査

大里瑞木（近畿大学農学部環境管理学科）

期間：8月7日～17日

二色の浜周辺の海藻について

木嶋海智（近畿大学農学部環境管理学科）

期間：9月1日～12日

泉南市に上陸産卵したアカウミガメ



寄贈標本

<鉱物>

◆西草孝子さんより

黄銅鉱など 10数点

貝塚市澤 2014年6月29日採集

<植物>

◆山本八重子さんより

マングローブ 生体2点

沖縄県産 2014年2月22日採集

<鳥類>

◆和田一輝さんより

種名不明 卵1点

貝塚市地蔵堂 2014年9月1日採集

◆田中翔・辻優士さんより

ドバト 卵殻1点

貝塚市二色 2014年9月26日採集

<魚類>

◆尾野浩二さんより

マルアジ 生体 3 点
貝塚港 2014 年 8 月 20 日採集

- ◆木村努さんより
ヌマムツ 生体 1 点
泉南市新家川上流 2014 年 6 月採集

<軟体動物>

- ◆三宅壽一さんより
マダコ 生体 3 点
阪南市西鳥取漁港
2014 年 7 月 10 日採集
- ◆由井豊彦さんより
ウミケムシ 生体 1 点
貝塚市二色の浜 2014 年 7 月 25 日採集

<節足動物>

- ◆松井彰子さんより
チチュウカイミドリガニ 1 点
岸和田市阪南 2 区人工干潟
2014 年 7 月 10 日採集
- ◆田中学さんより
アカテガニ 生体 1 点
アシハラガニ 生体 1 点
クロベンケイガニ 生体 1 点
近木川河口 2014 年 7 月 13 日採集

<クモ>

- ◆久礼有生さんより
セアカゴケグモ 成体 1 点
貝塚市二色 2014 年 8 月 23 日採集

<昆虫>

- ◆福田哲郎さんより
アカガネサルハムシ 成虫 1 点
和泉市松尾寺 2014 年 5 月 27 日採集

コフキコガネ 成虫 1 点
貝塚市二色の浜 2014 年 7 月 1 日採集
オオアオイトトンボ 成虫 1 点
和泉市信太山 2014 年 9 月 16 日採集
ウスバカゲロウ 成虫 1 点
ミドリヒョウモン 成虫 1 点
ヒカゲチョウ 成虫 1 点
キンモンガ 成虫 1 点
和泉市槇尾山 2014 年 9 月 16 日採集

- ◆五藤武史さんより
コハンミョウ 成虫 1 点
貝塚市馬場 2014 年 6 月 19 日採集
コハンミョウ 成虫 2 点
貝塚市馬場 2014 年 7 月 2 日採集
コハンミョウ 成虫 2 点
貝塚市馬場 2014 年 7 月 8 日採集

- ◆川口博さんより
ゴマダラカミキリ 成虫 1 点
貝塚市二色 2014 年 7 月 14 日採集

- ◆鈴木司郎さんより
キボシアシナガバチ 巢 1 点
貝塚市二色 2014 年 7 月 23 日採集

- ◆常道武士さんより
キマダラカメムシ 幼虫 1 点
貝塚市澤 2014 年 8 月 7 日採集
コカマキリ 成虫 1 点
貝塚市澤 2014 年 8 月 13 日採集
オオホシカメムシ 成虫 1 点
貝塚市澤 2014 年 9 月 27 日採集

- ◆秋武仁志さんより
ツノトンボ 成虫 1 点
和泉市大野町 2014 年 8 月 16 日採集
- ◆濱谷巖さんより
セスジスズメ 成虫 1 点
岸和田市別所町 2014 年 8 月 20 日採集

◆江本大地さんより

オナガミズアオ 成虫 1 点
貝塚市名越 2014 年 8 月 24 日採集

◆自然遊学館わくわくクラブより

チャイロチビゲンゴロウ 成虫 2 点
貝塚市二色 2014 年 7 月 12 日採集
ヘイケボタル 成虫 1 点
岸和田市河合町 2014 年 8 月 24 日採集

◆渡辺波玲さんより

ツユムシ 成虫 1 点
ホシササキリ 成虫 1 点
ツチイナゴ 成虫 2 点・幼虫 1 点
トノサマバッタ 成虫 3 点
マダラバッタ 成虫 7 点
ショウリョウバッタ 成虫 3 点
オンブバッタ 成虫 1 点
貝塚市二色南町 2014 年 9 月 28 日採集

◆食野俊男さんより

ヒトツメカギバ 成虫 1 点
和泉葛城山山頂 2014 年 9 月 30 日採集

＜寄贈写真＞

◆秋武仁志さんより

ヒヨドリ幼鳥 1 枚
貝塚市窪田 2014 年 5 月 15 日撮影
アオイトトンボ成虫 2 枚
岸和田市奈良池 2014 年 5 月 27 日撮影
キマダラカメムシ幼虫 1 枚
岸和田市奈良池 2014 年 7 月 28 日撮影
イソヒヨドリ 2 枚
チョウトンボ 1 枚
貝塚市馬場 2014 年 8 月 29 日撮影

◆五藤武史さんより

コハンミョウ成虫 3 枚
堺市鉢ヶ峯 2014 年 7 月 15 日撮影

＜鳴き声情報＞

◆五藤武史さんより

クマゼミ
高石市 2014 年 7 月 4 日
ニイニイゼミ
貝塚市馬場 2014 年 7 月 8 日
ミンミンゼミ
高石市羽衣公園丁 2014 年 8 月 23 日
ミンミンゼミ
和泉市幸 2014 年 8 月 25 日



スタッフ日誌

7 月 22 日、貝塚市の姉妹都市カルバーシティ（米国）の中学生ら 18 人が来館しました。二色の浜で穴の開いたアサリの貝殻拾いをした後、館に持ち帰って、その貝でアクセサリー作りを行いました。（高・浩）

7 月 23 日～25 日、大阪府立泉鳥取高校 2 年の三上里緒さんと庄司悠佑さんが職業体験に来ました。夏期特別展の開幕前だったため、大学生の学芸員実習生とともに準備作業に奮闘してくれました。ありがとうございました。（スタッフ一同）

7 月 30 日、夏休みに行う小中学校の先生対象の生きもの大好き塾も 3 年目になりました。今年は座学なしで、午前は汽水ワンドで調査ということで、胴長をはきタモ網で生きものを探しました。午後からは千石荘を案内しました。千石荘では青いアカトンボこと、ナニワトンボを見てもらうことができました。（浩・岩）

8月7日、「貝塚科学の祭典」が昨年に引き続き行われました。今年は夏開催ということで、当館は二色の浜での地曳網、多目的室での貝のアクセサリー作りを担当しました。市内の大勢の小学生が来てくれました。(高・浩・鈴)

9月23日、市民の方から「貝塚港にウミガメの死体が打ち上がっている」と聞き、その方と一緒に見に行きました。テトラポット護岸の水面上の場所に、その死体は挟まっていた。甲羅の長さは80～90cmでした。1週間前ぐらいから死体があったそうです。大阪市立自然史博物館と日本ウミガメ協議会に連絡しました。(岩)

9月29日、木島小学校4年生に近木川学習の出前授業に行きました。10月3日の現地学習に備えて、近木川の生きもの、周辺の植物、河原の石などの話をしました。(浩・岩・湯)



お知らせ

五藤武史写真展

「泉州地方のチョウ」

期間：2014年11月1日（土）
～11月24日（月）

場所：自然遊学館多目的室

泉州にすむチョウを、五藤武史氏が撮影した写真で紹介します。



* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、
下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2014 秋号 (No. 73)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2014.11.17

この小冊子は店内印刷で作成しています。